「ビジネスモデルを全国へ発信」商品開発と地域活性イベントが成果をあげて

富士山麓からの発信

富士宮高校会議所

富士宮市が日本一の生産量を誇る「ニジマス」を活用した「ふりかけ」「お茶漬け」「おつまみ」開発、市のふるさと納税返礼品にも選ばれた

富士宮市内の5高校の生徒たちが連携して、高校生の視点と行動力で地域振興や地方創生・商店街再生・地域ビジネスの手法について実践を通して学び、アイデアを発信している「富士宮高校会議所」は、「にしまち活性化プロジェクト」として事務局としている西町レトロ館前で「れとろ楽市」を開催し、地元の有機農業農家・富士山麓有機農業推進協議会の協力で新鮮な無農薬野菜などを販売して好評を博するなど、昨年は様々に高校生の視点と実行力で「富士宮の活性化」に取り組み『富士山麓からの発信』の成果を挙げてきた。

「れとろ楽市」では、高校生スタッフが学校行事などで忙しい時には、サポーターでアドバイザーでもある望月英樹さんら協力支援の市民が販売をアシストするなどして、地域連携の事業として輪をひろげてきた。

昨年は富士宮市市制75周年で開催された「商工フェア」にサポーターや協力店舗などと開発した地域特産品を販売するコーナーを設けて人気を集め、西町商店街の「にしの市」に参画出店して市や地域の催しに積極的に参画してきた。

様々な形で高校生の視点と行動力で地域活性化の事業を実践してきた「富士宮高校会議所」は今年5月に「日本高校会議所」の設立に向けて、現会頭の中村真緒さんを中心にした設立準備委員会で準備を進めている。

設立2年目の昨年は、西町商店街の人々との交流会での意見交換、滋賀県立八幡商業高校との「近江商人再生プロジェクト」、富士宮ワイズメンズクラブ例会出席で中村会頭が活動発表、中学生との商品開発交流・グループワーク、観光協会主催の東京工業大学の勉強会に会員有志が参加して意見交換、世界遺産センター開館に伴い商店街活性化に提言と「ぶらっと歩こう」ウォーキングの実施、「高校生が考える50年後の富士宮の景観」提言に「宮フォトコンテスト」を実施、18歳選挙権行使に当たり提言と知事選候補者へのアンケート実施、川勝県知事の訪問を受けて知事との座談会、防災菓子「風祭」の開発と防災意識高揚のイベント開催、高校生西町小劇場開催、地域研究発表会開催、高校生パフォーマンス大会開催、地域ストーリーテーリング開催などのイベント事業を展開した。

商品開発では、観光協会主催の富士宮みやげものコンテストに「富士の四蔵まんじゅう」を出品して奨励賞を受賞、富士宮市が日本一の生産量を誇る「ニジマス」を活用した「ふりかけ」「お茶漬け」「おつまみ」開発、市のふるさと納税返礼品に選ばれる、「にしの市」や宮町歩行者天国、浅間大社門前市など各種イベントに出展して開発商品を販売するなども行った。

このような富士宮高校会議所のビジネスモデルを全国発信したことが、「日本高校会議所」設立への流れとなった。

様々にイベントを催し（お話会で地域と連携も）

日本高校会議所準備委員会を設立（明石市で12月）

ごみ収集・し尿くみとり・センターごみ受入れ年始の休みのお知らせ

◇ゴミ収集休み期間＝1月3日まで

◇し尿くみ取りの休み期間＝1月4日まで

◇清掃センターごみ受入れ休み期間＝1月3日まで

ひばり号巡回

▽3日＝巡回休止

▽4日＝大岩明倫保育園（巡回休止）三ツ矢小泉保育園（巡回休止）北山小学校（14時30分～16時）山宮小学校（巡回休止）

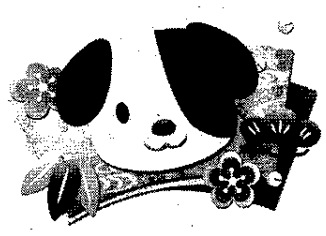
【緊急医】

【3日】

〈内科・小児科・外科〉市救急医療センター（☎24 9999）

〈歯科〉午前9時～午後5時まで同所

〈眼科〉加藤医院（富士市比奈・☎0545 34 0011）



賀正

平成30年　新春

本年もよろしくお願いします

毎日新聞　静岡新聞
日本経済新聞　サンケイ
スポーツニッポン

(株)鈴木新聞店
社員一同
富士宮市小泉一一二四―一
本店☎二六―三二八五
芝川店☎六五―二三一四

朝日新聞　日刊スポーツ

中野新聞舗
本店
富士宮市万野原新田二八六八―二
☎0120-500-252

読売新聞　静岡新聞
読売こども新聞　スポーツ報知
読売中高生新聞

(株)勝亦新聞店
社員一同
本店☎二六―一一〇〇
西支店☎二五―三〇二〇
富士根店☎(0545)七一六二

朝日新聞　静岡新聞
日刊スポーツ

(株)SHC
南部新聞販売センター
富士宮市神田川町二九―三
☎(0544)26―2543